

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	府中市美好町 2 - 4
園名	府中市立美好保育所

1. 活動のテーマ

<テーマ>

野菜（しいたけ）

<テーマの設定理由>

日々子どもたちは、自然に触れることが好きなので、植物の生長をきっかけに様々な気づきが広がると感じ野菜作りと考えました。

保育所では身近な野菜の栽培を実施しており、その延長の活動として実施することで、野菜（植物）の生長などに興味をどのように示していくのか、日々の成長を通し子どもたちとともに発見が広がるのではと感じます。

畑づくりでは、土に触るなど、自然の中で気づきも多いと思いテーマに設定しました。

また、野菜を育てることで、食べてみたい、おいしかったなどの食育へとつながると感じます。

2. 活動スケジュール

R8 年 4 月末 子どもたちがシイタケの原木と出会う。

何の木だろう、ちょっと生えているこれは何だろう？

みんなで、調べてみる。

どうやら食べられるしいたけみたい。

5 月 どうすれば育つのかな？ 探求してみよう

保護者会での報告と協力依頼

6 月～7 月 子どもたちが調べたことや保護者からの情報をもとに、試行錯誤しながら発芽を目指す。

収穫できたものを調理して食べる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

観察するための虫眼鏡や携帯顕微鏡、疑問に思ったことやよりよい生育方法を調べるための図鑑を用意した。

また、原木を置く場所は、子どもたちが水やりをしやすいよく見える場所を検討し、シートを準備して、湿度を逃さないための工夫をした。原木に十分な水分を含ませるため、小型のプールに水を張り、原木を浸けられるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

出会い…ある日5歳児室にやってきた謎の木が、いったい何の木なのか？生えているのはキノコ？いったい何だろう？みんなで図鑑を使って調べたり、栄養士に訪ねてみる。

食べられる？…調べた結果、食べられそう！美味しかった！

もっと育てたい！…生育が鈍くなってきたので、どうすればもっと育てるにはどうしたらいいか？自分たちで調べたりおうちの人にも協力してもらったりしながら研究。（水に浸ける、叩く、輪切りにする、水やりをするなど）

経過観察…虫眼鏡で観察、少しの発芽を見つけては図鑑で調べたり、観察したものを絵に描いてみる。

やった！まだできた！…再収穫ができたものをどのようにして食べるかを相談し、給食室で調理してもらう。
（焼きシイタケしょうゆ味、シイタケのから揚げ）

これからどうする？…なかなか継続して収穫ができないので、どうするかをみんなで調べ、話し合う

シイタケは元々秋の作物なので、暑い季節はいったん休止し涼しくなったら再開することにする。再度浸水させ、叩いて発芽を目指す。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

シイタケと分かる前は、「毒キノコかもしれない」と少し警戒する姿もあったが、「シイタケに似ている」との意見が出ると、「栄養士の先生ならわかるはず！」とわくわくしながら給食室に確認する。

シイタケと判明した後は、「どうしたら育つか？」「できたらどうやって食べる？」、「食べたらどうだった？」などと、子どもたちに問うたびに「〇〇はどう？」、「〇〇してみたらいいかも」、「から揚げはおいしかった」と子どもたち一人ひとりが積極的にかかわろうとする姿が多くなっていった。水やりなどにも積極的に変化の兆しを見逃さないようにする意欲、育て上げるための方法を考える力が見られた。シイタケのから揚げは人気で、栄養士にレシピを作ってもらい、家庭でもつくってもらったといった話が多く聞かれた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・子どもたちの何だろう？楽しそう！という探求心が芽生えてくると、次から次へと自分たちで行動する姿がみられるようになった。「これはどう？」、「こっちじゃない？」、「こうしてみようよ」と、こんなにもワクワク積極的に活動していくのを感じた。

・今回、図鑑、絵本、資料などを充実させることで、子どもたちが自発的に教材を使用し、探求を深めていった。子どもの「今！」、「この瞬間」の好奇心を満たせることが更に次の探求心を生んでいく姿をみて、「こどもがやってみたい」と思ったこと実現できる環境を整えていくことの大切さを改めて学ぶことができた。

一方で、子どもの中にも興味の持ち方や継続性に差があり、どのような投げかけえをしていけばいいのか悩み、担当同士で何度も話し合った。

・友だちと一緒に活動を重ねていくことで、興味・関心は更に深まっていくことを知った。

・家庭に返し保護者と共に一つのことを考え、実践していくことができたことは、共通の喜びや達成感を得ることにつながった。